

長野県松本市 カタセビル



1. 火災の特色

この火災は、改装工事中の物品販売店舗で起きた火災であり、店内には従業員や工事作業員ら38名がおり、死者6名、負傷者12名が発生した。火元は2階のフロアで、じゅうたんの貼りつけの作業が行われ、多量の接着剤が使われており、その接着剤より発生した可燃性ガスに、工事作業員の1人がたばこを吸うためにマッチを擦ったところ引火したものである。

2. 出火日時等

(1) 出火日時

昭和53年9月26日（火）14時42分ごろ

(2) 覚知日時（覚知方法）

昭和53年9月26日（火）14時49分（119番通報）

(3) 鎮火日時

昭和53年9月26日（火）16時30分

3. 火元の概要

(1) 所在地

長野県松本市中央2-3-26

(2) 火元建物等の名称

㈱カタセ

(3) 火元建物の構造等

- ① 建築年月日
昭和45年12月
- ② 増改築の状況
増築 昭和40年5月
- ③ 建物用途
物品販売店舗（4項）
- ④ 構造
鉄筋コンクリート造（耐火造）地上4階
一部木造 地上2階
- ⑤ 面積
建築面積：233.0㎡
延べ面積：647.0㎡
- ⑥ 出火当時在館者
1階…工事人5名、店員1名
2階…工事人11名、店員1名
3階…店員20名
4階…なし

合計 38名（改装工事中）

- ⑦ 建物階層別用途及び床面積

階数	面積	用途
4	60.7㎡	倉庫、更衣室
3	126.0㎡	事務室、食堂
2	226.7㎡	店舗、倉庫
1	233.6㎡	店舗
計	647.0㎡	

- (4) 消防用設備等の設置状況

- ① 消火設備 消火器 9本
- ② 警報設備 自動火災報知設備
- ③ 避難設備 避難梯子（2、3階各1）

- (5) 防火管理の状況

- ① 防火管理者 選任届 昭和48年11月1日
- ② 消防計画 昭和52年5月1日
- ③ 避難訓練 1年に2回の避難訓練を実施。

4. 気象状況

- (1) 天候
曇り
- (2) 風位、風速
風位：西北西 風速：1.0m/s
- (3) 気温、湿度
気温：23℃、相対湿度：47%、実効湿度：75%
- (4) 警報・注意報
なし

5. 出火原因

- (1) 発火源
マッチ
- (2) 経過
引火
- (3) 着火物
建材木工用接着剤「速乾ボンドG10」
(引火性接着剤) 第4種第1石油類該当

6. 損害状況

- (1) 人的被害状況
 - ① 死者6名 女子従業員5人(22才2名 23才2名 35才1名)
内装作業員1人(26才)
 - ② 負傷者12名 (19才～51才)
- (2) 物的損害状況
 - ① 火元建物
 - ア 焼損程度 全焼
 - イ 焼損面積 461m²
 - ウ 損害額 175,974千円
 - ② 類焼建物
 - ア 棟数 1棟
 - イ 焼損程度 部分焼
 - ウ 焼損面積 60m²

7. 火災の経過(火災の様態)

- (1) 出火場所等の状況
 - ① 出火場所 木造側2階の2階店舗内の、作業部分
 - ② 出火場所にいた者は内装工事人11名、カタセ従業員1名である。
- (2) 出火に至るまでの経過

2階改装工事中でじゅうたんの貼りつけ作業を行うために接着剤を使用しており、その可燃性ガスに、工事作業員がたばこを吸うためのマッチをすって引火した。

(3) 火災発見の経緯

2階フロアにてじゅうたんの貼りつけ作業を行っていた工事作業員が、引火時に覚知。

(4) 消防機関への通報状況

カタセの前を通りかかった女性が、ビルの窓から火煙が噴出しているのを発見し、近くの喫茶店にかけこみ、119番通報した。

(5) 初期消火の状況

爆発的な引火のため初期消火は行われていない。

(6) 死者の状況

ア 2階フロアでは爆発的延焼のため避難できず、工事作業員1名が焼死した。

イ 3階ではカタセの女子従業員5名が、一酸化炭素中毒のため死亡した。

(7) 避難の状況

ア 1階にいた男女6名は、全員出入口より避難した。

イ 2階には、12名いたが階段により4名が避難し、さらにアーケード屋根に飛び移った人が6名いた。

ウ 出火時、3階には20名いたが、火災発生に気づいたときには、すでに室内に煙が充満しており、東側の窓からアーケードへ飛び降り、男2名が屋外階段から隣りの建物に移り、12名（男4名、女8名）が2階の屋根づたいに避難した。

(8) 自衛消防隊の活動状況

消火器で初期消火しようと試みているが、爆発的な引火のため使用できなかった。

(9) 火災拡大の状況

耐火部分と木造部分を区画する防火シャッターが、設置されていたが、閉鎖せず、延焼拡大した。

さらに、階段の区画がされていなかったために、階段を介して3階、4階へと延焼した。また、木造部分1階へと延焼した。

8. 消防機関の活動状況

(1) 出動隊等

出動した消防隊、消防職団員数等

① 出動車両	連絡車	6台
	水そう車	5台
	はしご車	1台
	救急車	3台
	指揮車	1台
	工作車	1台
	普通ポンプ車	15台

放水塔車	1台
積載車	9台
計	42台

② 出動人員

消防職・団員計 372人

(2) 消防機関の消火・救助活動の状況

熱気と煙で内部への進入が困難で、有効な消火活動が行えなかった。

9. 問題点・教訓

- (1) 接着剤が、危険物品で揮発性が強く、引火後、爆発的に燃焼した。
- (2) 非常放送が行われなかったため、火災初期の消防対応（消防機関への通報、避難誘導、初期消火等）が遅延した。
- (3) 3階避難者の大部分は、アーケードがあったため比較的容易に避難ができたので、負傷者の大部分が軽傷ですんだ。
- (4) ビル火災特有の濃煙と熱気により、消防隊の消防活動が長時間にわたった。
- (5) 出火建物は、外壁部分に開口部分が少なく、また、裏面道路が狭隘のため消防活動が困難であった。

10. 資料

図-1 : 1階平面図

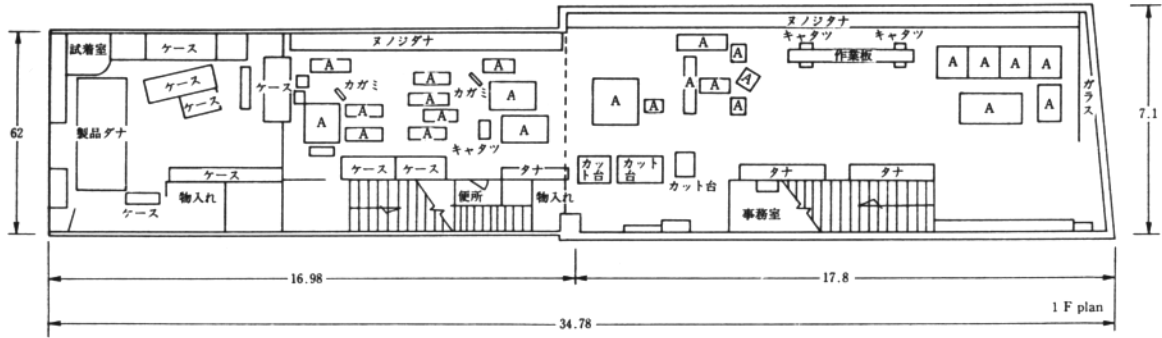


図-2 : 2階平面図

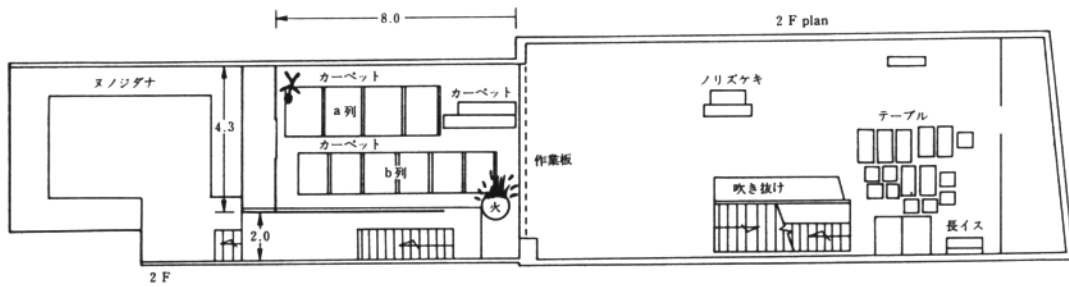


図-3 : 3階平面図

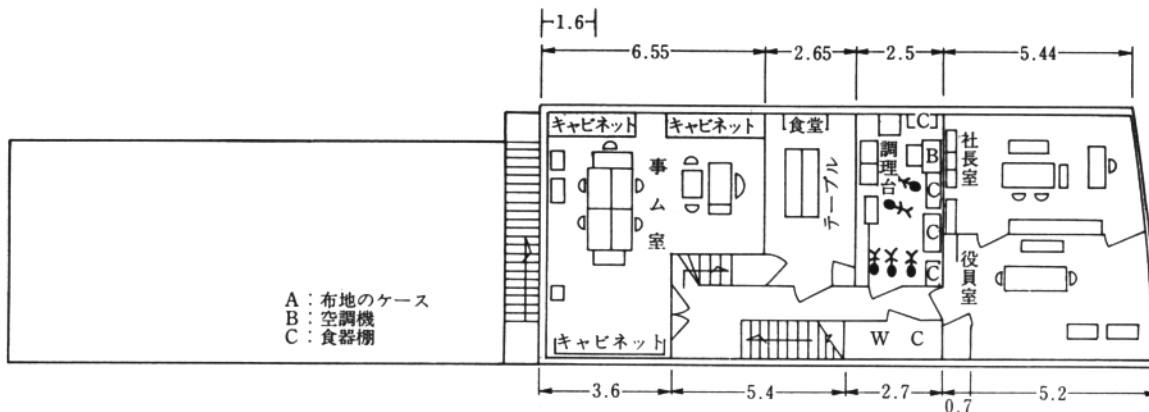


図-4 : 4階平面図

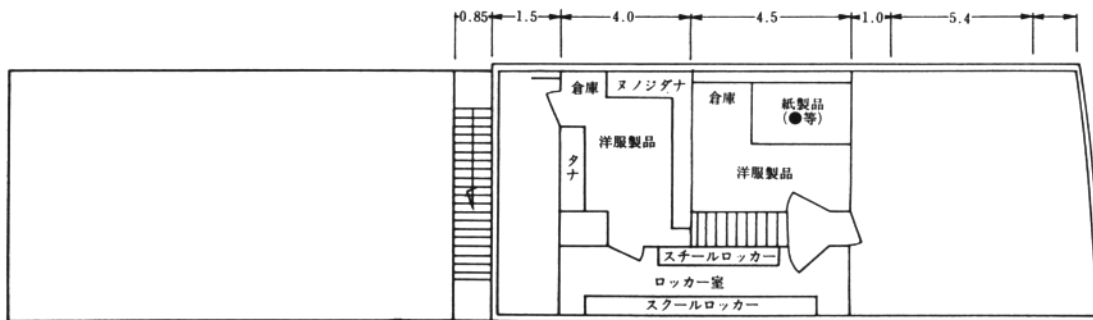
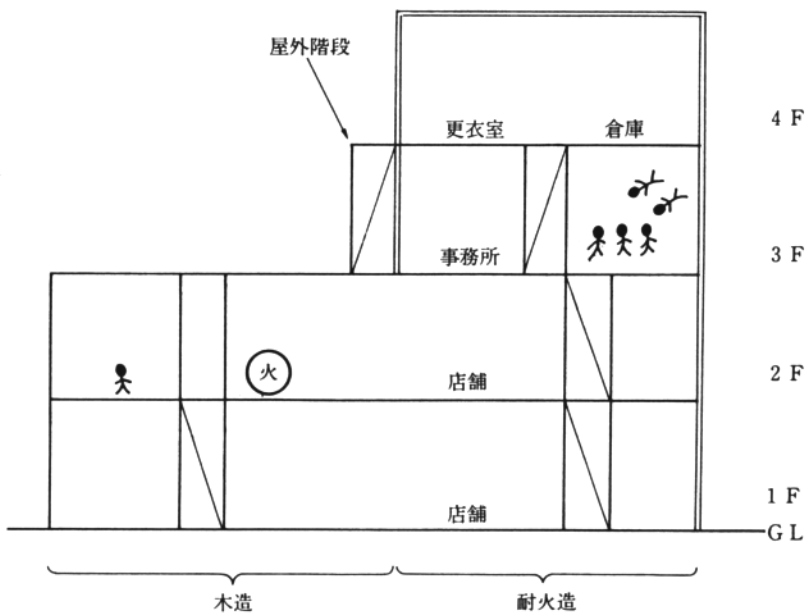


図-5 : 断面図



死者発生階と死者数